







各新聞など情報誌の記事をピックアップして掲載しています。
木のこと、経済、福祉、災害、エコ、住まいなど、色々な話題です。

令和7年 **3**月のHPきごころ通信 (先月の話題)

目次

- (1)  人口 東京集中に拍車 女性・若者の流入多く
- (2)  私立中の費用 公立の3倍 3年で467万円、1割が塾代
- (3)  「置き配」トラブル相談増
- (4)  城ブーム まちを元気に 主要50城、2000万人超訪問
- (5)  出生数最少72万人 昨年
- (6)  ながら運転 死亡・重傷最多 昨年164件



(1) 人口 東京集中に拍車 女性・若者の流入多く

25道府県で流出加速

*2024年の東京都では、転入者が転出者を上回る「転入超過」が79,285人と、前年から11,000人拡大。女性が53%。

*転出超過数が増えて人口流出が拡大したのは25道府県。

*転入超過となった大阪圏は依然として男性は転出超過ですが、女性は流入増。

*女性が転出超過なのは40道府県。

*東京圏は、20～24歳についてはすべての道府県との間で転入超過。

*東京圏は男女の賃金格差が地方より小さい傾向。

転入超過、7都府県どまり

*転入超過となったのは東京都のほか、埼玉県、千葉県、神奈川県、山梨県、大阪府、福岡県の7都府県。

(2025年2月1日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(2) 私立中の費用 公立の3倍

3年で467万円、1割が塾代

*2023年度、私立中の授業料や学用品の購入費などを含めた学習費総額は、3年間で計467万円。

*公立中の3倍に及び、2014年比で16%増えました。

*制服代は15万円。

各新聞など情報誌の記事をピックアップして掲載しています。
木のこと、経済、福祉、災害、エコ、住まいなど、色々な話題です。

*目立ったのは全体の1割を占める学習塾代の増加で、2014年比24%増の51万円。

*私立中学生の通塾率は2023年度で51%。公立は66%。

*世帯収入は、私立は1000万以上が60%を占めます。

*2024年度、全国の中学生のうち私立中に在籍するのは8%。

*授業料は公立中が無料であるのに対し、私立中は平均46万円。

(2025年2月4日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(3) 「置き配」トラブル相談増

配達ミスや盗難、後絶たず 対策費、自治体補助も

*東京都消費生活総合センターによると、2023年度に寄せられた置き配に関する相談は368件で、2019年度(104件)の3.5倍に増えました。

*国民生活センターへの相談も2020年度から増加傾向にあります。

*荷物の誤配や届いた商品の破損といった内容が多く、盗難や紛失の相談も。

(2025年2月17日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(4) 城ブーム まちを元気に

主要50城、2000万人超訪問

*訪日客を含めて「城ブーム」が続く中2023年度には全国の主要な約50城を計2000万人超が訪れました。

*過去最多は2015年度の2178万人。

*都道府県別では、国宝の城がある愛知、長野、兵庫が上位に。

☆2023年度に入場者数が多かった城

順位	城名	入場者数	順位	城名	入場者数
1	大阪城	240万人	6	首里城	95
2	名古屋城	205	7	松本城	89
3	二条城	185	8	彦根城	65
4	姫路城	147	9	犬山城	60
5	熊本城	135	10	小田原城	58

(2025年2月22日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

各新聞など情報誌の記事をピックアップして掲載しています。
木のこと、経済、福祉、災害、エコ、住まいなど、色々な話題です。

(5) 出生数最少 72 万人 昨年

少子化、政府予想超す 社会保障 現役世代に負担

- *2024年に日本で生まれた子どもの数（外国人を含む出生数）は、前年比5.0%減の720,988人。9年連続で過去最少を更新。
 - *政府の想定よりも15年早く少子化が進んでいます。
 - *死亡数は1.8%増の1,618,684人。
 - *婚姻数は2.2%増の499,999組。
 - *2023年に29.1%だった高齢化率は、団塊ジュニア世代が65歳以上になる2040年には34.8%に達する見込み。
- (2025年2月28日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(6) ながら運転 死亡・重傷最多 昨年 164 件

自動車・自転車でのスマホ使用 多い若年層、SNS操作

- *スマートフォンを使用する「ながら運転」による2024年の死亡・重傷事故が自動車・自転車ともに過去最多。
- *スマホや携帯電話を使用中に起きた死亡・重傷事故は、自動車が136件（前年比14件増）、自転車が28件（同2件増）。
- *2020～2024年の自転車の死亡・重傷事故で、19歳以下が63件（55.3%）。
- *20代を含めると全体の74.6%。
- *自動車の死亡・重傷事故は30代以下で58.7%。
- *2020～2024年に起きた自動車事故の死亡事故率は、ながら運転の場合に通常時の3.7倍に上昇しました。
- *自動車のながら運転で事故を起こすなどの危険を生じさせた場合、即刻免許停止としたうえで例外なく刑事処分の対象になります。
- *自転車のながら運転についても酒気帯び運転とともに全国で統一した罰則を創設。
- *6か月以下の懲役または10万円以下の罰金と規定。
- *事故原因は、自動車・自転車ともに画面を注視する「画像目的」が9割。
- *地図アプリの使用やSNSで相手とやりとりをしながら運転する人が目立ちます。

各新聞など情報誌の記事をピックアップして掲載しています。
木のこと、経済、福祉、災害、エコ、住まいなど、色々な話題です。

*人間は視線を周囲の対象物に移した上、視覚情報が脳で認識されて「真に見えた」ことになります。

*ながら運転中に歩行者が視野の一角に入っているにもかかわらず、視線が向いていなければ存在が認識されません。

*人間の脳は2つのことを同時に認識できず、関心が高いほうに意識が偏る傾向。

(2025年2月28日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

